

ひろしまレポート 2025 年版について

1 趣旨

「国際平和拠点ひろしま構想」の具体化のための取組の一つとして、(公財)日本国際問題研究所に委託して「ひろしまレポート 2025 年版」を取りまとめた。

本レポートを国内外に発信し、核軍縮等に向けた各国の取り組む状況を広く示すことで、国際社会における核兵器廃絶にプロセスを着実に前に進めるための機運醸成を図る。

2 配付資料

- (1) ひろしまレポート 2025 年版 本編 (日本語)
- (2) ひろしまレポート 2025 年版 概要版 (日本語)
- (3) ひろしまレポート 2025 年版 小冊子 (日本語・英語)
- (4) 略歴 (阿部 信泰 氏・秋山 信将 氏)

3 評価対象国及び評価項目

(1) 評価対象国

核兵器国、核保有国 (核兵器不拡散条約 (NPT) 非締約国)、非核兵器国等 34 か国

- ・ 核軍縮、核不拡散：31 か国
- ・ 核セキュリティ：27 か国

(2) 評価項目

核軍縮、核不拡散、核セキュリティの計 78 項目

[内訳：核軍縮 41 項目、核不拡散 19 項目、核セキュリティ 18 項目]

4 分野ごとの主な傾向

【核軍縮】

核軍縮の停滞や軍縮から逆行する動きが続く中、再活性化のための様々な取組や提案がなされたが、その逆転には至らず、核保有国による核軍縮の合意や実施に進展が見られない。米国はロシアと中国に二国間の核軍備管理協議を提案したが、進展はなかった。核保有国は核抑止力の重要性の認識を深め、核戦力の近代化を進めており、なかでも中国の核戦力増強や核戦略変更に懸念が持たれている。核兵器禁止条約

(TPNW) の署名国は 1 か国、批准国は 4 か国増加したが、核保有国とその同盟国は条約に署名しない方針を変えていない。

※評点変動があった主な国

- ・ 改善した国：インドネシア、南アフリカ、サウジアラビア
- ・ 悪化した国：スウェーデン

(3) 推薦文

- ジョージ・パーコビッチ 核兵器のない世界に向けたジャパン・チェア
カーネギー国際平和財団副理事長
- ロバート・ウォード 国際問題戦略研究所（IISS）日本部長
地経学・戦略担当ディレクター

(4) 電子書籍版

読者の利便性の観点から、印刷版、PDF版に加え、昨年に引き続き電子書籍リーダーで閲覧可能なEPUB版をリリース予定。（令和7年度上半期中を予定）

ひろしまレポート 2025年版（日本語版、英語版）は、

以下のウェブサイトにて入手できます。

※4月18日（金）13時15分公開予定

【日本語版】

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/hope-report.html>

【英語版】

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80-en/hope-report.html>

（日本語版）



（英語版）

